

富士山の噴火警戒レベル

— 火山災害から身を守るために —








噴火警報等で発表する 噴火警戒レベル

噴火警戒レベルとは、噴火時などに危険な範囲や必要な防災対応を、レベル1から5の5段階に区分したものです。各レベルには、火山の周辺住民、観光客、登山者等のとるべき防災行動が一目で分かるキーワードを設定しています(レベル5は「避難」、レベル4は「避難準備」、レベル3は「入山規制」、レベル2は「火口周辺規制」、レベル1は「活火山であることに留意」)。対象となる火山が噴火警戒レベルのどの段階にあるかは、噴火警報等でお伝えします。



富士山 噴火警戒レベルに対応した規制範囲




富士山では、噴火した時に影響が及ぶ可能性の高い範囲を以下のように推定しています(全ての範囲が同時に危険になるわけではありません)

-  火口ができる可能性の高い範囲
-  噴火しそうな時、噴火が始まった時すぐに避難が必要な範囲(火砕流、噴石、溶岩流の影響が及ぶ可能性の高い範囲を重ねたものです)
-  火砕流の流下範囲
-  噴石の到達範囲
-  溶岩流(3時間以内に山頂から流下する範囲)
- 積雪時には融雪型火山泥流  の到達範囲も対象になります。
-  溶岩流が24時間以内に到達する範囲


噴火警戒レベルと必要な防災対応

噴火する前の段階

- ・レベル5(避難)及び・レベル4(避難準備)

   の3つの範囲での避難準備及び要援護者避難等

- ・レベル3(入山規制)

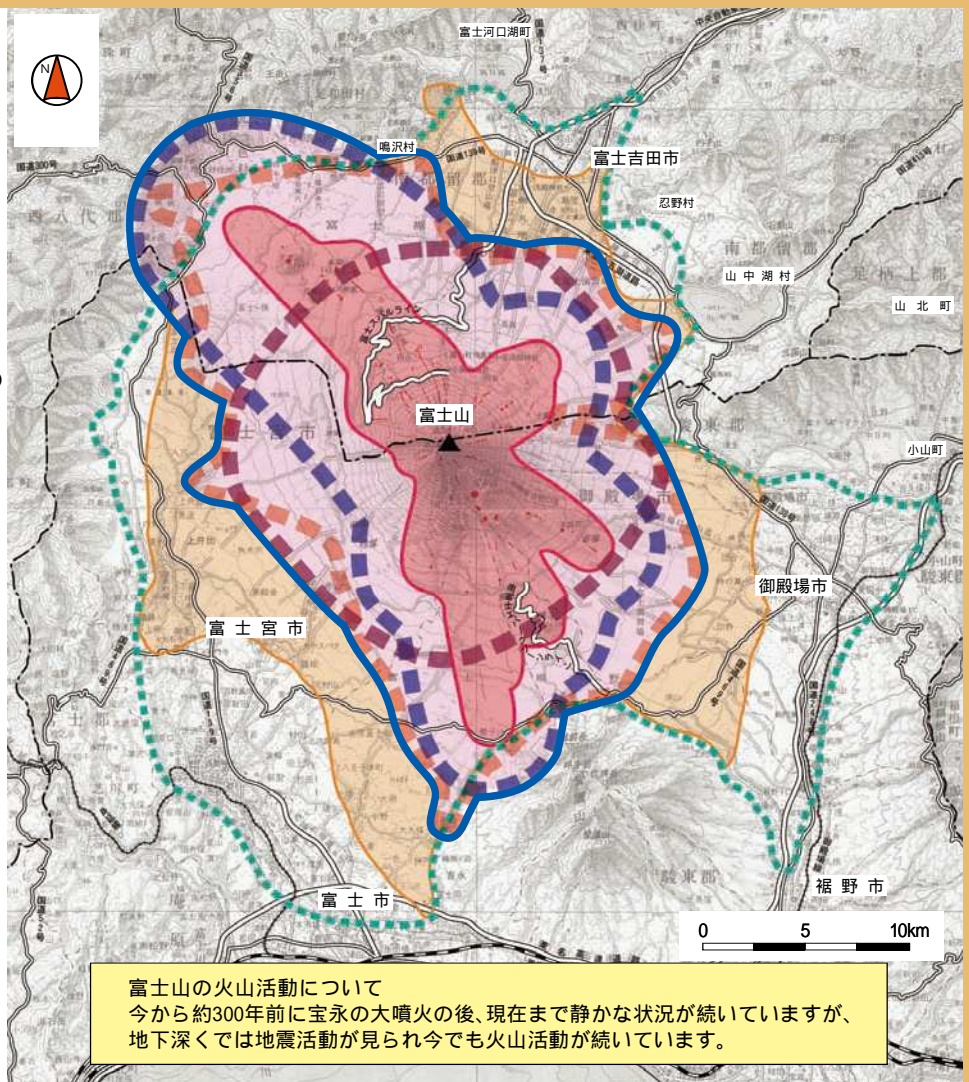
 の範囲での活動自粛等

- ・レベル2(火口立入規制)
限定的な危険地域の立入規制等

- ・レベル1(活火山であることに留意)
特になし

噴火開始後の段階

状況に応じて対象範囲を判断することになります。



富士山の火山活動について
今から約300年前に宝永の大噴火の後、現在まで静かな状況が続いていますが、地下深くでは地震活動が見られ今でも火山活動が続いています。

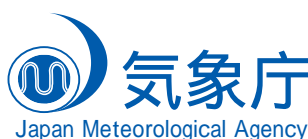
この図は、富士山火山防災マップ(富士山火山防災協議会、平成16年6月)に基づいています。

富士山の噴火警戒レベルは地元自治体と協議して作成しました。各レベルにおける具体的な規制範囲等は地域防災計画等で定められておりますので詳細については富士山周辺の下記自治体 にお問い合わせください。

静岡県、富士市、御殿場市、裾野市、富士宮市、小山町、山梨県、富士吉田市、富士河口湖町、西桂町、山中湖村、忍野村、鳴沢村、身延町、神奈川県



本冊子は、植物油インクを使用しています。



気象庁地震火山部火山課 火山監視・警報センター

TEL : 03-3212-8341 (内線4536) <http://www.jma.go.jp/>

甲府地方気象台 TEL:055-222-9101

<http://www.jma-net.go.jp/kofu/>

静岡地方気象台 TEL:054-286-3521

<http://www.jma-net.go.jp/shizuoka/>

横浜地方気象台 TEL:045-621-1999

<http://www.jma-net.go.jp/yokohama/>

問い合わせ先



富士山の噴火警戒レベル

予報警報	対象範囲	レベル (キーワード)	火山活動の状況	住民等の行動及び登山者・入山者等への対応	想定される現象等
噴火警報	居住地域及びそれより火口側	5 (避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。	大規模噴火が発生し、噴石、火砕流、溶岩流が居住地域に到達（危険範囲は状況に応じて設定）。 宝永（1707年）噴火の事例 12月16日～1月1日：大規模噴火、大量の火山灰等が広範囲に推積 その他の噴火事例 貞観噴火（864～865年）： 北西山腹から噴火、溶岩流が約8kmまで到達 延暦噴火（800～802年）： 北東山腹から噴火、溶岩流が約13kmまで到達 顕著な群発地震、地殻変動の加速、小規模噴火開始後の噴火活動の高まり等、大規模噴火が切迫している（噴石飛散、火砕流等、すぐに影響の及ぶ範囲が危険）。 宝永（1707年）噴火の事例 12月15日昼～16日午前（噴火開始前日～直前）： 地震多発、東京など広域で揺れ
		4 (避難準備)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される（可能性が高まっている）。	警戒が必要な居住地域での避難準備、災害時要援護者の避難等が必要。	小規模噴火の発生、地震多発、顕著な地殻変動等により、居住地域に影響するような噴火の発生が予想される（火口出現が想定される範囲は危険）。 宝永（1707年）噴火の事例 12月14日まで（噴火開始数日前）： 山麓で有感となる地震が増加
火口周辺警報	火口から居住地域近くまで	3 (入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	登山禁止・入山規制等危険な地域への立入規制等。	居住地域に影響しない程度の噴火の発生、または地震、微動の増加等、火山活動の高まり。 宝永（1707年）噴火の事例 12月3日以降（噴火開始十数日前）： 山中のみで有感となる地震が多発、鳴動がほぼ毎日あった
	火口周辺	2 (火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常的生活。火口周辺への立入規制等。	影響が火口周辺に限定されるごく小規模な噴火の発生等。 過去事例 該当する記録なし
噴火予報	火口内等	1 (活火山であることに留意)	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）。	特になし。	火山活動は静穏（深部低周波地震の多発等も含む）。

注1) ここていう噴石とは、主として風の影響を受けずに飛散する大きさのものとする。

注2) ここでは、噴火の規模を噴出量により区分し、2～7億m³を大規模噴火、2千万～2億m³を中規模噴火、2百万～2千万m³を小規模噴火とする。なお、富士山では火口周辺のみに影響を及ぼす程度のごく小規模な噴火が発生する場所は現時点で特性されておらず、特定できるのは実際に噴火活動が開始した後と考えられており、今後想定を検討する。

注3) 火口出現が想定される範囲とは、富士山火山防災マップ（富士山火山防災協議会作成）で示された範囲を指す。

各レベルにおける具体的な規制範囲等については地域防災計画等で定められています。各市町村にお問い合わせください。

最新の噴火警戒レベルは気象庁HPでもご覧になれます。

<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>